

議事（１）前回の委員会と部会の意見確認と対応方針

1. 第2回 検討委員会（平成28年12月21日（水）開催）

①アンケート調査結果

意見	回答、対応方針
利用頻度の「それ以下」とは何か。【大木委員】	月に1日以下の利用頻度の選択肢であり、ほとんど利用しない方となる。【事務局】
市民等へのアンケート結果で特徴的な傾向は出ているか。【永井委員長】	環境負荷の低減や駐輪場の混雑緩和をメリットとする意見が比較的多くなった。また、レトロ車両のニーズが比較的多くなった。沿線に商業施設や公共交通の充実を求める意見なども寄せられた。一方、事業の採算性を気にする意見などもあった。【事務局】
コミュニティバスのアンケートでは通常、通院目的の需要が多くなる。しかし今回のアンケートでは、それと異なる若い世代などの需要も出ており、新たな需要が見込まれると想定してよいか。 【永井委員長】	今回のアンケートでは、高齢者は買物、若い世代は通勤・通学を目的とする回答が比較的多くなった。【事務局】 サービス水準やまちづくりの状況により需要は変化するものであり、想定する状況に幅があるものの、一定程度の需要が見込まれる結果が出ている。【大森宣暁副委員長】

②新たな公共交通システムのネットワーク計画について

項目	意見	回答、対応方針
需要予測について	「週に 1 日以上」の利用頻度の割合が約 48.1%となっているが、需要予測にどのように反映したのか。【A 委員】	利用頻度係数を設定し、利用者数を推計した。アンケート結果を素直に捉えて需要を予測した。【事務局】
	おーバスとの関係も考慮して検討していく必要がある。【A 委員】	コミュニティバスとの役割分担を考慮し、事業効果の予測などを一体的に検討していく。【事務局】
	市全体で考えると、市民アンケートのサンプル数 145 人は少ないと感じる。【A 委員】	市民には直接聞き取り調査を行ったが、今後も広く周知するように検討していく。【事務局】
サービス水準について	高齢者向けの運賃優遇サービスは計画しているか。【B 委員】	富山市でも小学生や定期利用者などの割引を実施しており、優遇措置を検討する必要がある。今回の収支予測でも割引実収率を設定し、収入を試算している。【事務局】
	学生などの利用が朝に集中することを想定すると、定時性の確保が重要になる。その対応策として情報提供装置や IC カードの導入などが考えられる。初期投資と維持管理を一体的に考えた方がよい。【C アドバイザー代理】	将来的には、路面電車とバスを一体的に運営することも考えられる。【永井委員長】
	(株)東光高岳のトランス搬出に支障が出ないよう、運行時間などは別途協議させてほしい。【D 委員】	トランス搬出は前提条件であり、企業のメリットを整理していくことが重要である。【永井委員長】
	1 時間に 3 本の運行を想定した場合、10 分に 1 回の頻度で路面電車が道路と平面交差することになるが、自動車交通への影響をどのように考えるか。【E 委員】	企業や工場の前面道路の交通量調査は行っていない。自動車交通への影響は今後検討していく。【事務局】
	事業の枠組みについて	収支の試算結果を見ると、民間事業者の単独運営は厳しいと感じる。そこで第三セクター形式が想定されるが、小山市が経営主体になることを十分認識する必要がある。【A 委員】

	<p>整備手法の比較案の違いは何か。 【永井委員長】</p>	<p>運営主体や整備費用に違いはないが、J R 貨物敷地以外を市道にする 2 案は、当該用地の取得が容易になると考える。【事務局】</p> <p>メリットがあることが前提だが、事業に協力したい。売却か賃借かなどの用地提供の方法については、事業が具体化する段階で協議させていただきたい。</p> <p>【F オブザーバー】</p>
<p>まちづくりとの連携について</p>	<p><u>小中学生の反応などを見ていると、沿線住民をはじめ、みんなが楽しみ居場所として、軌道敷の空間などを活用することが重要と感じる。市、市民、企業、土地所有者などが協働し、新しい公共空間を創出できるとよい。まちづくりで人を呼び込み、路面電車の需要を高めたい。【豊川副委員長】</u></p> <p><u>市民等と協働で軌道敷などの緑を維持管理することは、治安や環境の向上だけでなく、管理費の削減にもつながる。【豊川副委員長】</u></p> <p><u>既存のまちかど美術館などを沿線に移設することなども視野に入れたい。市民活動の拠点があると、高齢者も外出しやすくなる。【豊川副委員長】</u></p> <p><u>沿線のまちづくりは、需要の掘り起しに寄与するとともに、小山市の人口増加にもつながるものである。今後の課題に沿線のまちづくりの必要性を記載すべき。【G 委員】</u></p>	<p>沿線の企業・工場は、工業団地の制度ができる以前に立地しており、インフラが計画的に整備されていない。<u>緑豊かで人が歩いて楽しめる集いの場が不足しており、地元の期待もある。例えば帯広市では、市街地を囲む都市公園としてグリーンベルトを市民と協働で整備し活用している。本地区でも同様に、沿線とより広範な周辺とを緑や市民活動でネットワークしていくなどの展開も考えられる。</u></p> <p><u>また、採算性を見込める事業とならない場合は、まちづくりの一環としてどのように位置付けられるかが重要になる。【永井委員長】</u></p> <p>沿線のまちづくりとの連携は必要であり、今後の課題に追記した。【事務局】</p>

2. 第3回 合同部会（平成29年3月1日（水）開催）

① 前回意見と対応方針

意見	回答、対応方針
前回の部会意見にある「貨物の運行は、路面電車の運行時間に合わせて検討していきたい」は誤解を招く表現のため、削除してほしい。【A代理】	削除した。【事務局】
前回の委員会で自動車交通への影響について質問したが、企業の前面道路だけでなく、線路に交差する南北方向の道路も含め、通過交通をゾーンで抑制するソフト施策の検討が必要と感じる。【B委員】	ご指摘の通り、周辺道路も含めた交通規制による迂回誘導等も考えられるが、まずは実態を調査したい。【事務局】

② 収支予測の再検討、整備効果

項目	意見	回答、対応方針
収支予測の条件設定	ディーゼル車の経費は、LRTと同じ設定ではなく、類似する鉄道会社の実績値を用いた方がよい。【C委員】	ディーゼル車を運行している事業者の原単位を参考に再検討する。【事務局】
	ディーゼル車の累計損益もLRTと比較した方がよい。【C委員】	ディーゼル車は整備費を縮減できるが、国の補助の対象とならないが、バリアフリーの観点等も含めて、総合的に評価したい。【事務局】
	前回の収支予測からどのように条件が変わったのか。【D委員】	前回は富山ライトレールを参考に試算したが、今回は小山市の運行計画等に類似した地方鉄道の輸送実績を用いて精査した。【事務局】
	その他の経費に土地の賃料は入っていない理解でよいか。【E代理】	現段階では関係企業と詳細な調整まで至っておらず、土地の賃料は含めていない。金額については未定である。【事務局】

整備効果と 今後の課題	<p>自家用車によるドアツードアの移動に比べ、不便になることをマイナスの整備効果に挙げた方がよい。【C 委員】</p>	<p>沿線住民にとっては移動手段の選択肢が増えることがメリットになる。 【大森宣暁会長】</p>
	<p>ネットワークも重要だが、ドアツードアに近づける移動環境を実現することが今後の課題になる。【C 委員】</p>	<p>今後の課題を修正する。【事務局】</p>
	<p>道路の混雑等の影響把握だけでなく、信号制御等による影響改善のシミュレーションも今後必要である。【C 委員】</p>	<p>優先信号等を考慮し、今後、自動車の渋滞検討を行っていききたい。【事務局】</p> <p>道路交通のシミュレーションは今後実施する必要がある。【大森宣暁会長】</p>
	<p>既存のコミュニティバスの存続の有無により、路面電車の交通需要も変わってくると考える。【D 委員】</p>	<p>今後の課題でバスとの役割分担や路線再編を示している。【事務局】</p>
	<p>アンケートの意見にあった騒音や振動の懸念も、マイナス面の影響として考えられるのではないかと。【D 委員】</p>	<p>マイナス面の整備効果については再検討したい。【事務局】</p>
	<p>小山市を本拠地とする「栃木ゴールデンブレイブス」の公式戦開催等に伴い、小山運動公園の球場利用の需要増大が見込まれるが、路面電車からのアクセスをどう考えるか。【E 委員】</p>	<p>線路を延伸することは難しいが、停留所等から球場へのアクセスについては、今後検討していききたい。【事務局】</p>

③まちづくりの実現化方策

	意見	回答、対応方針
今後の課題	<p>都市と農の交流拠点は、都市計画区域内で定める立地適正化計画の対象外となるため、内閣府の小さな拠点等の制度を活用することが考えられる。また、住宅団地リノベーションエリアは、市街化調整区域が含まれるため、土地利用の転換等が必要になる。すぐに事業化することが難しく、調整や検討が必要な取組については、課題についても触れた方がよい。【B委員】</p>	<p>白鷗大学の東キャンパスはすでに着工しており、宇都宮大学サテライトプラザもすでに稼働している。一方、都市と農の交流拠点や住宅団地リノベーションエリアはまだ検討段階であるが、まちづくりの方向として出せるメニューを示したものである。【豊川会長】</p> <p>費用分担や実施主体の調整等が今後必要であり、これらの課題についても記載したい。【事務局】</p>
	<p>停留所は、利用者がベンチや ICT 機器等に直接接触する場でもあり、沿線企業においては、技術やノウハウを市民に開示するパビリオンやプレゼンテーションの場として、環境整備に前向きに協力してほしい。工場見学だけでは伝えにくい部分を PR できれば、より有意義な事業になる。 【豊川会長】</p>	
その他	<p>資料は事前配布してほしい。 【Fオブザーバー】</p>	<p>当日配布となりお詫び申し上げます。今後は事前配布を遵守する。【事務局】</p>